

地域資源を活かした新たな体験学習創出授業 「港区立小中一貫教育校お台場学園」

NPO法人日本ビーチ文化振興協会代表理事
佐伯 美香

おだいばビーチ

東京都港区のお台場海浜公園内には、全長800mの人工ビーチが広がり、砂浜には伊豆諸島 神津島の砂がしきつめられている。おだいばビーチは、一年を通して様々なイベントが開催され国内外の観光客で賑わいを見せ、ビーチ・マリンスポーツのメッカとして愛好者や地元の方に親しまれているビーチである。2021年には「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 トライアスロン会場」として使用され、また、お台場海浜公園からほど近いところにある潮風公園には「ビーチバレーボール会場」が設けられ、お台場から世界中に興奮と感動を与えた。



お台場海浜公園おだいばビーチ（東京都港区）

ビーチを活かした新たな授業

今回、そのお台場海浜公園おだいばビーチの目と鼻の先にある「港区立小中一貫教育校 お台場学園 港陽小学校・港陽中学校」の小学5年生（54名）と中学1年生（26名）を対象に、体育授業の課目としては都内初となる「ビーチバレーボール」を実施した。お台場学園特有の立地であるビーチを活かし、「はだし」になって潮風を感じることで、人間本来の足の機能を高めながら心身の健康を図り、また活動の中で砂浜に落ちているゴミを拾う「ビーチクリーン」を通じて、自然に触れながら環境保全への理解を深めることを目的とした新たな授業として取り組んだ。

授業では、ビーチバレーボールオリンピックの私と元ビーチバレーボールアスリートの浦田聖子

（当協会理事）、元プロビーチバレーボールアスリートの井上真弥が講師を務めた。オリンピックの正式種目である「ビーチバレーボール」で世界を転戦してきたトップアスリートによる指導として、競技の魅力や楽しさを感じてもらうだけでなく、子どもたちに夢や目標を持つことの大切さも伝えられるよう務めた。また、地域コーディネーターの「港区青少年対策お台場地区委員会」の方々に授業の運営をサポートいただき、地域の方と生徒との交流を行いながら、地域の良さを再発見し、子どもたちの愛郷心の育みへとつなげていった。

授業は全4回（第1回：9月12日（月）、第2回：10月3日（月）、第3回：10月13日（木）、第4回：10月24日（月））実施した。

1回目テーマ「挑戦」

はだしで砂に慣れることからスタートした。9月中旬ではあったが、日中は30℃近くまで気温が上がり、日差しも強く砂も熱くなっていたことから、熱中症や足裏の火傷がないよう、休憩や水分補給を多く取り、砂浜に定期的に水を撒きながら生徒たちの体調面に気を配った。過酷な中での授業ではあったが、子どもたちは弱音を吐くことなく、むしろ初めてのビーチでの体育授業を思い切り楽しんでいった様子であり、意欲的に取り組んでいた姿が印象的だった。授業を終え、次回の課題について講師、スタッフを交えて意見を出し合い、またボランティアの地域コーディネーターの方々からも意見をいただき、学校側と共有し、万全を図った。



授業開始前に全員でビーチクリーン

2回目テーマ「協力」

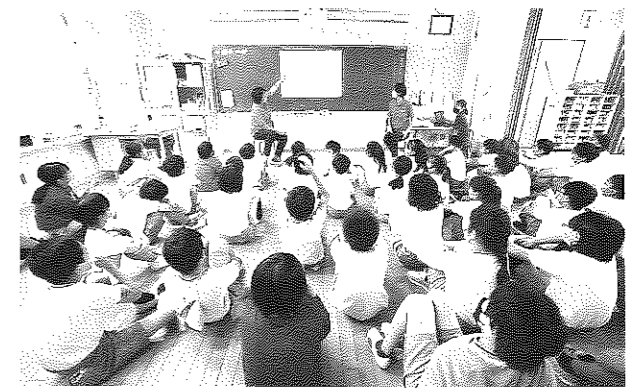
チームに分かれてボールを運ぶゲームや、二人一組になってボールを落とさないようにパスをつなぐなど、ゲーム性を持たせて楽しめる内容で行った。チームの中で作戦を考えたり、名前を呼んで声を掛け合ったりと、自然と生徒同士がコミュニケーションをとって協力する姿があったことは、現代のインターネット社会からかけ離れた時間であると実感した。



授業の様子

3回目テーマ「思いやり」

屋内にて実技と講義を行った。講義では、ビーチバレーボールの歴史やルールなどについて映像を見ながら説明し、また、映像に出てきた内容についてクイズを出すと積極的に手を挙げてクイズに答えていた。質疑応答では、「試合前にはどんなルーティーンをしていたか」「何歳からバレーボールをはじめたか」「試合前に緊張しないか」など、様々な質問があり、そのひとつひとつに答えた。講義の最後に目標や夢を持つことの大切さや、その達成には様々な人の支えがあることから、感謝の気持ちを大切にしてほしいと伝えた。



講義の様子 映像を見ながらビーチバレーボールについて学ぶ

4回目テーマ「諦めない」

この時間では、生徒の上達ぶりを目に見えて感じることができた。アンダーパスやオーバーパスで味方にボールを返すことができ、また、サーブの練習でネットを越えられるまで続けていた生徒もおり、テーマに沿った形として授業を終えることができた。

授業を通して、生徒からは「楽しかった」「ビーチバレーボールに興味が出た」「サーブやパスが上達して嬉しかった」などの声を聞くことができた。また、校長の大島一浩先生は、「国際大会等で活躍していた有名なアスリートからの指導のおかげで、子どもたちはみるみる上手くなった。さらに各回のテーマを通して、スポーツの技術だけではなく、人間として大切なものを学ぶこともできた。本校は『地域に開かれた学校』から一歩進んで、『地域と共にある学校』であることを実感している」と授業の効果を感じていた。

おわりに

おだいばビーチは、イベントやスポーツの場というだけでなく、教育の場としても利用できる資源であると実感し、海辺を利用した新しい学校教育の取り組みを検討しながら、今後も継続した事業となるよう、学校と地域と連携を図っていく。



生徒とビーチにて記念撮影